

教育の情報化と ICT Connect 21 の活動 (パネルディスカッション)

オーガナイザ：田村恭久（上智大学）

世界各国における初等中等教育の情報化は、研究段階から試験導入や運用の段階に移りつつある。また、TCO の低減や相互運用性の保証を目指す各種の標準仕様が徐々に実用フェーズに入りつつある。国内でも、省庁・自治体・学校が教育の情報化の実現に向け検討や試験導入を進めており、併せて様々な仕様やガイドラインが整備されつつある。これらの対象は電子教科書・教材自体のみならず、クラウドプラットフォームの利用、学校情報システム、学習記録データの蓄積と利用といった多方面に渡る。こういったなか、ICT Connet21 (<https://ictconnect21.jp/>)が 2015 年 2 月に設立された。これは「学習・教育オープンプラットフォーム」に関連する技術の標準などを策定し、その普及を図り、教材コンテンツや教育 ICT サービスなどの流通や利活用を促進する団体であり、「ビジョン委員会」「技術標準化 WG (ワーキンググループ)」「普及促進 WG」が議論を開始している。本セッションでは世界各国や日本における教育の情報化の概況や、ICT Connect21 の活動内容・予定を紹介する。また、研究・シーズ、実践・ニーズ、マーケット・EdTech といった3つの側面において、教育の情報化に期待・要求される事柄を列挙し、今後の ICT Connect21 の方向性や課題を整理したい。

- 登壇者
 - 栗山 健(学研教育総合研究所所長／ICT Connect21 代表幹事)
 - 田村 恭久(上智大学教授／ICT Connect21 技術標準化 WG 座長)
 - 岩本 隆(慶應義塾大学特任教授／ICT Connect21 普及促進 WG 座長)
 - 柏原 昭博(電気通信大学教授)
 - 西端 律子(畿央大学教授)
 - 吉田 自由児(デジタル・ナレッジ COO)

- 発表・議論内容
 - 教育の情報化に関する国内外の概況と、ICT Connect21 設立の背景と目的
 - 教育の情報化に関する各種技術標準と、ICT Connect21 技術標準化 WG
 - 国内の今後の展開と、ICT Connect21 普及促進 WG
 - 教育工学研究やシーズの観点からの期待・要求
 - 授業実践の現場やニーズの観点からの期待・要求
 - 教育マーケットのオープン化や EdTech の活性化に向けた期待・要求
 - パネルディスカッション:今後の ICT Connect21 方向性や課題の整理